

資料室だより 159

橋本先生の遺品のなかには宗教的ソロ・カンタータが多数あります。資料室の収集からもれていた珍しい作品もありますのでよいコレクションが形成されました。皆さんも先生をしのびながら是非活用していただきたくご紹介します。

+Heinrich Bach: Ach, dass ich Wassers gnug hätte

ハインリッヒ・バッハは大バッハの祖父の兄弟にあたり、1615年から1692年まで生きた人です。「アルト独唱のための哀歌」と副題がついており、アルトソロにヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバ四重奏、オルガンの通奏低音が付く非常に美しい悔悛の歌です。

+Christoph Bernhard: Was betrübst du dich, Meine Seele

宗教的コンチェルト副題がついています。アルト独唱とヴィオラ・ダ・ブラッチョ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、通奏低音の編成で橋本先生の字で小さく「なぜうなだれるのか、わたしの魂よ」と書き込まれています。詩編42:6です。有名な Sicut cervus 「鹿が谷川の水を求めするように」の一部です。

+Johann Valentin Meder: Ach Herr, strafe mich nicht in deinem Zorn

1649年から1719年まで生きたドイツの作曲家、オルガニスト、歌手でもあった人の作で、私もまったく知らない作曲家でした。父親と4人の兄弟全員がオルガニストかカントーラであったという音楽一家で、彼は特に歌手として名声が高かったようです。ソプラノ独唱、2つのヴァイオリン、チェロ、通奏低音による詩編6をテキストとした嘆きのアリアです。

+George Friedrich Händel: Preis der Tonkunst

正式なタイトルは The Praise of Harmony で音楽の聖人、聖チェチリアへの頌歌の補遺として作曲されたと言われています。これだけ独立して演奏されるもので、ソプラノ独唱、2つのヴァイオリン、ヴィオラ、通奏低音です。

杉本ゆり 記